



早稲田大学 100 周年記念
台湾同學会



日台稲門会 ニュースレター11月号 (2021年11月15日発行)

日台稲門会会員・会友の皆様

日台稲門会ニュースレター11月号をお届けします。

1. 挨拶 (三村達 会長)

日台稲門会では11月10日(水)に一般法人台湾協会の事務所をお借りして総合商社出身の岩永名誉会長×小椋副幹事長によるオンライン座談会を小生司会で収録いたしました。

<総合商社での人生>、<台湾と私>、<日台関係について>の3つのテーマで時間的には約1時間30分です。

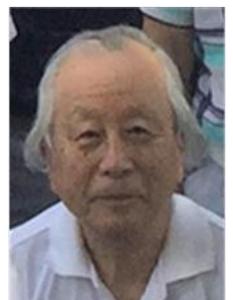
皆様に配信いたしますので是非ご覧ください。



2. 台湾時代の思い出 (渡邊義典さん)

■芝山巖 芝山巖学堂 六士先生の墓(その6)

私の住むアパートから芝山巖に突き当たって左へ歩いていくと「雨農国民小学」という小学校があります。台湾の学校の校庭は授業のないときは市民に開放されていますので、私も夜には時々この校庭へ行ってグラウンドの走路を歩きました。大勢の人たちが黙々と歩きます。私もその中に溶け込んでおよそ3000歩を目標にします。



朝は芝山巖の遊歩道を歩きますので、朝・夜合わせて約 8000 歩、歩くことになります。日中の歩行と合わせて毎日約 1 万歩が達成できます。週末ゴルフで 18 ホールをスルーでカートなしで歩き続けますから、毎日の 1 万歩は非常に役に立つトレーニングになります。雨聲街、雨農国小、それに雨農橋、雨農路と優雅な名前の街だなど最初は思っていました。ところが若林先生の「台湾」（ちくま新書 2001 年刊）を読むと、「芝山巖の光景」という序章に詳しく芝山巖のことが出ていて、「雨農」というのはあの有名な戴笠の号であると書かれていました。

戴笠という人は蒋介石の情報機関の元締めだった人です。日中戦争を扱った書物を読むと必ず出てくる諜報機関の大ボスです。彼は 1946 年に死亡していますから台湾には来ていないのですが、戴笠を記念して「雨農」という地名にしたとのこと。

芝山巖の頂上から見ると北東方面に、高い塙で囲まれた学校とも事務所ともつかぬ建物群が見えます。国旗が掲揚されていて翩翩と風になびいています。この建物は何だろうと、ある休日の朝、建物へ向かって歩いて行こうとしたのですが、かなり奥深く、しかも途中に検問所のようなものがあり、怖くなって引き返しました。後で聞くと、そこが「国家安全局」とのことです。

芝山巖は山全体に台湾の歴史が古代から現代まで凝縮されているところだと、知れば知るほど奥深く感じるところです。全山の遊歩道を歩くだけで様々な歴史に思いをはせることができます。

鬱蒼と茂った山林から愛らしい台湾リスが遊歩道に出没します。鳥や蝶などの生物観測もできます。

芝山巖を巡りながら目についた様々な事柄を調べていくうちに、台湾の歴史を深く勉強することができたように思います。私にとって台湾在住時の貴重な経験と思い出です。

6 回にわたり読んでいただいてありがとうございました。（この項終わり）（渡邊義典）

参考：戴笠^{たいりゅう}（1897～1946）

中国国民党情報部幹部。西安事件(1936)後、張学良の収監・護送を担当。1946年に戦後処理で南京に向かう途中、飛行機事故で死亡。享年 50 歳。蒋介石をして「戴笠が生きていたら、台湾に撤退せずにすんだのに」と言わしめた。（Wikipedia）

3. 台湾からの便り 台北稲門会より（斎藤征二さん）

台北稲門会の斎藤さんからの寄稿です。

■COVID-19と台湾の対応

2020年1月に日本でも武漢から来た観光客を乗せたバスの乗務員が新型コロナウイルスに感染したことが明らかになりましたが、台湾でも武漢から帰国した人が発症しました。すると台湾の交通部（交通省）観光局は25日から31日まで、中国からの訪台団体ツアーの受け入れと台湾からの訪中団体ツアーの出発を停止するよう観光業者に命じました。それは早くから武漢で詳細不明のウィルス性の病気が流行しているようだ、との情報を把握していたからです。

また台湾政府は25日以降、湖北出身者の訪台禁止や湖北出身者以外の中国人による各種訪台手続きの一時停止などといった措置を実施しております。

（この命令は31日以降も継続されました。）

そして2月3日に台湾衛生福利部（衛生省）の中央流行疫情指揮中心は、6日からマスクの購入に実名制を導入すると発表しました。販売先のコンビニエンスストアなどで一部市民の買い占め行為が横行して、手に入らない市民が増えていた事態に対応するためです。マスクのコンビニでの販売は3日夜で停止しました。

2月7日には、中国や香港、マカオをトランジットして台湾に入境した航空便の旅客に対し、一律14日間の自宅などでの隔離措置を取ると発表しました。

また航空便や旅客船の運行制限も2月10日から開始しました。

そして3月19日には外国人の入境制限を実施したのです。

4月9日にはクラブとダンスホールの営業停止を命じましたが、感染者の減少により5月21日には営業再開となりました。

それ以降本年(2021年)4月までは代表的な防疫成功例として過ごして来ました。

この期間日常生活には全く不自由がありませんでした。

ところが5月初旬から感染者が出て、クラスターも起こりました。発端は航空会社パイロットが「夜の街」で遊んだことのようにです。

そして5月15日に警戒レベル（第1級が最も緩く、第4級が最も厳格）が第2級から第3級に引き上げられました。

台湾全域で、レジャー施設を一時閉鎖することも決められました。対象は◇バー◇ナイトクラブ◇カラオケボックス（KTV）◇マッサージ店◇ボーリング場◇ジム◇ゲームセンター◇ゴルフ場——など。

台北市と新北市はこれらに加えて◇映画館◇体育館◇博物館◇美術館◇室内プール◇遊園地——なども閉鎖となりました。林森北路の灯りも消えました。

8月3日には飲食店の室内営業、スポーツジム、ゴルフ場などは許可されましたが、クラブやダンスホールの営業は停止のまま現在まで続けております。

しかし、感染者が増えなかったため、10月18日に全面解除となりました。

なお日本からこれまで計340万4,000本のワクチンが寄贈され、台湾の方々に感謝されております。(斎藤征二)

4. 台湾「国旗」削除に「痛みを共有したい」フリーダイビング大会で日本を含む各国連携で抗議

9月20日～30日にキプロスで開かれたフリーダイビング世界選手権で、中国の嫌がらせで参加選手の国旗を台湾のみ非表示にしたことで、日本を含む出場各国が抗議と自国国旗の取り下げを行なったため、主催者が謝罪する事態に。「私たちは台湾だけが不利益を負っている状況を看過できません。私たちは台湾と痛みを共有したいと思います。私たちはスポーツに政治が干渉することを許しません」と抗議の意を示した。(10/4JCAST ニュース)

なお、日本選手団の山下あるな選手は、日台稲門会幹事の藤本篤氏の会社（株式会社PILOT JAPAN、PJ-T&C 合同会社、株式会社 Sociarise）の社員で、会社もスポンサーとして山下選手を応援しています。

<https://www.facebook.com/japan.freediving.association>



写真 左：Twitter 右：山下あるな選手（藤本氏提供）

5. 経済ニュース(劉彦甫 記者)

今月も劉彦甫さん（WTA出身で現在東洋経済新報社記者）の署名記事を紹介します。

■民意と乖離目立つ対中姿勢、カギは経済の議論

台湾の最大野党が「蔡英文」の牙城を崩せない憂鬱

劉彦甫：東洋経済記者／山崎理子：東洋経済記者

蔡英文政権に挑む国民党の動きは、今後の台湾政治や中台関係などにどう影響するのか。東京外国語大学の小笠原欣幸教授に聞いた。(10/15 東洋経済)

<https://premium.toyokeizai.net/articles/-/28466>



小笠原教授（東洋経済）

■中国が先に申請したことで揺れる台湾政府

台湾 TPP 加盟申請で問われる「岸田新政権」の手腕

中国と台湾があい前後して TPP に加盟申請。

日本は難しい舵取りを迫られている。(10/15 東洋経済)

<https://premium.toyokeizai.net/articles/-/28369>



■TPP 加盟申請で激突、台湾と中国に求められる条件

国際政治と経済分野の識者はこう見ている

中国と台湾が TPP に加盟申請した。

これによって台湾と中国の今後の関係や、日本はどんな影響を受けるのか。東京大学松田康博教授に聞いた。(10/2 東洋経済)



松田教授（写真：東洋経済）

https://premium.toyokeizai.net/articles/-/28376?utm_campaign=EDtkprem_2110&utm_content=459525&utm_medium=article&utm_source=edTKO#contd

■パナソニック「慎重すぎる」電池投資のリスク 大型投資に踏み切れない「ある社内事情」とは



車載電池世界3位で国内最大手のパナソニックは、ほかの大手電池メーカーと比べて増産投資に消極的だ。追い風の中でも石橋をたたき続ける理由とは。(11/11 東洋経済)

https://premium.toyokeizai.net/articles/-/28735?mtest=c&utm_campaign=EDtkprem_2111&utm_content=467896&utm_medium=article&utm_source=edTKO#contd

劉記者の記事一覧 下記サイトを参照

<https://toyokeizai.net/list/author/%E5%8A%89+%E5%BD%A6%E7%94%AB>



6. 台湾トピックス

■岸田自民党新総理の曾祖父の戦前の店舗、基隆に現存

自民党総裁となった岸田文雄氏（1982年法学部卒）の曾祖父は、戦前、基隆で呉服店や喫茶店を営み、基隆発展の一端を担ったと。100年たった今でもその店舗建物は現存している。実父が基隆出身の女優で歯科医師、エッセイストの一青妙さんも、実父の実家のごく近所だったことをSNSやネット上で紹介。「『日本・岸田総理所縁の地』の看板が出ていたりして・・・」と新名所の誕生を喜んでいる。(10/2 JBpress)



岸田自民党総裁曾祖父の元会社建物
(義二路老街/基隆銀座。義二路・信二路交) (写真: JBpress)

<https://jbpress.ismedia.jp/articles/-/67172>



Jbpress(10/2)



産経 web(10/5)

岸田氏を「親台派」、「酒豪」と好意的に。

岸田氏は若手議員の時に、たびたび訪台して、立法委員から乾杯攻勢にあったが、最後まで酔わなかったと。曾祖父は、同地で1895年から99年まで経営。(10/5 産経)

7. 最近の台湾関連ニュース

【中国王毅外相 「台湾には統一以外ない」と米欧の接近牽制】 (10/31 産経)

【蔡総統 米軍の台湾での訓練認める】 27日、蔡英文総統は、CNNとのインタビューで、米軍特殊部隊が台湾陸上部隊を訓練していることを認めた。(10/29 産経)

【米駐台代表 台湾の自己防衛支援】 米サンドラ・オウドカーク在台湾協会所長表明。(10/30 産経)

【米 台湾の国連参加を支援】 米務省は23日、国連や他の国際機関への台湾参加に向けて、台湾外交部と高官協議をオンラインで22日に開催したと発表。(10/25 産経)

【米大統領 台湾を守る責任があると発言】 米バイデン大統領は、台湾を守るつもりかの質問に対して、「その通り。私たちにはそうする責任がある」と発言。(10/23 産経)

【TSMC 日本に工場建設】 半導体受託生産で世界最大手のTSMCは、14日、ソニーと共同で2024年に日本(熊本)に新工場を新設・稼働することを発表。(10/15 産経)

【岸田首相 台湾関係法整備検討】 岸田首相は、11日夜、緊張の高まる台湾問題について、どんな事態でも対応できる態勢、法整備をすると強調。(10/13 産経)

【台湾国防部長 25年に中国の台湾侵攻可能と】 (10/7 産経)

【自民議員 謝代表と会合】 自民党有志議員連盟「『絆』を紡ぐ会」は5日、謝長廷代表を

国会に招いて会合を開いた。(10/6 産経)

8. 台湾映画紹介 東京映画祭(国立映画アーカイブ)

10月東京映画祭「よみがえる台湾語映画の世界」で上映された作品のうち、鑑賞した2つを紹介します。

◎『モーレッツ花嫁 気弱な婿さん』(三八新娘愁子婿)1967年 監督:辛奇

子供たちの結婚で、30年前つき合っていた親同士が再会。トラブルとなるが、親同士も昔の愛を確認し合い結婚とハッピーエンドになる。日本の高度経済成長期を飾った森繁久彌の「社長シリーズ」や植木等の「無責任男」の台湾版のような感じで非常に面白い。



◎『地獄から来た花嫁』(地獄新娘)1965年 監督:辛奇

基隆で不倫と思われる男女の海難事故があった。事件に不審感を抱いた女性の妹が、女性の夫(富豪)の家の家庭教師として乗り込み、事件を解決し、姉の夫と結婚するという物語。ホラー映画だが、映画の端々に「旅愁」、「故郷(ふるさと)」、「古城」など日本の歌が流れる。



9. 注目の台湾関連新刊本紹介

■『台湾を築いた明治の日本人』(渡辺利夫)(産経NF文庫)(税込908円)

単行本(2020年3月刊)の文庫版発売。台湾の発展に情熱を注ぎ、今なお台湾の人から尊敬されている児玉源太郎、後藤新平、八田与一、磯永吉などが紹介されている。



■『セデック・バレ』^{イェンジュン}（巖 伝農）（水野衛子訳）（河出書房新社）（税込 1,760 円）

1930 年の南投県で起きた霧社事件を書いたもの。

日本統治に反対する山岳民族セデック族の立場から書かれた本。（2015 年刊）

セデック・バレとは、セデック語で「真の人」という意味。（セデックはアラビア語でも「友人」という意味為、アジアイスラム圏では名前をつける人が多い。）



11 月 4 日早稲田大学台湾研究所の FB では、同名映画でセデック語の指導をしたダキス・パワン（郭明正）氏の訃報（享年 67 歳）を伝えていた。

10. 日本の台湾

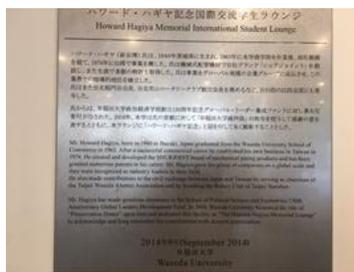
今月は、早稲田大学構内の台湾関連の建造物を紹介します。どちらも立派な記念碑です。一度訪問ください。

【台湾同学会寄贈】 一つは、大隈ガーデンハウス前にある、大学設立 100 周年を記念して台湾同学会より送られた狛犬。（表紙写真 参照）

【萩谷国際記念ラウンジ】 そして 3 号館の政経学部 1 階のハワード・ハギヤ記念国際交流学生ラウンジ。2015 年に台北稲門会会長もやられた故萩谷博（Howard Hagiya）氏の多大なご寄付をもとに設立。



萩谷夫妻（2015/9 竣工式で）

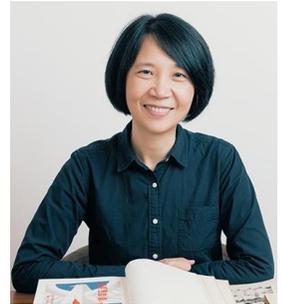


左写真：早稲田大学 HP より

11. 訃報

日本統治時代の庶民生活などを描いた作家・陳柔縉氏が逝去

台湾の庶民生活史に関連の著作などで知られる作家でコラムニストの陳柔縉氏は、今月 15 日夜、淡水の路上をバイクで走行中、車と追突、頭部に傷を負い救急で病院に運ばれたが、18 日午後帰らぬ人となった。享年 57 歳（台湾式の数え年齢）。同氏の著作は『囍事台湾』『台湾西方文明初体験』など歴史作品が多いが、昨年 12 月には時代小説『大港的女兒』を発表、これからの期待されていた。



日本統治時代を描いたものが多く、この作家の死に、「日本台湾交流協会」もフェイスブックで「あなたの作品は今昔をつなぐ魔法の門・・・これからも日本と台湾とを固く結び続けるだろう（原文は中国語）」といった内容の文で哀悼の意を表している。

邦訳作品には、『日本統治時代の台湾』（PHP）、『台湾博覧会 1935』（東京堂出版）、聞き書き作品に『台湾と日本のはざまを生きて』羅福全／陳柔縉（藤原書店）、『国際広報官 張超英』張超英／陳柔縉（まどか出版）がある。

編集後記

南の鹿港（ルーカン）に行った時のこと、モルタル外壁に日本語商店名が浮き出るように残っている建物があり、戦前の盛況を想像した。駐在時、日本からお客さんが来ると、昼に永康街の鼎泰豊に連れてゆき、その後、新北市の金宝山にあるテレサテンさんのお墓へ行き、最後は野柳の女王頭へというパターンだったが、今度は基隆の旧岸田商店もそのコースに入るかもしれない。（橋）